

## 医療安全通信 第76号-1

【薬局部 医療安全委員会】

医療安全推進のため、Pharma Bridgeを通じて、医療安全上の周知すべき情報やタイムリーな話題を随時発信いたします。業務手順書の書換えや日常業務にお役立てください。

### 食物アレルギーに注意すべき薬剤（1）

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業の「共有すべき事例」2019年 No. 9には『牛乳アレルギーがある患者にイナビルが処方された』事例が掲載されています。

[http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/pdf/sharing\\_case\\_2019\\_09.pdf](http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/pdf/sharing_case_2019_09.pdf)

#### ◆ 事例の内容

患者にイナビル吸入粉末剤20mgが処方された。患者のアレルギー歴に牛乳アレルギーの記載があったため本人に確認し、軽度の下痢が生じる時もあれば、全身に湿疹が出る時もあることを聴取した。イナビル吸入粉末剤20mgには乳蛋白を含む乳糖水和物が使用されていることから、処方医に処方変更を提案したところ、添加物に乳糖水和物を含まないオセルタミビルカプセル75mg「サワイ」に変更になった。

#### ◆ 背景・要因

未記載

#### ◆ 薬局が考えた改善策

受診時には、医師にアレルギー歴を必ず伝えるように患者に指導した。

#### ◆ その他の情報

イナビル吸入粉末剤20mgの添付文書（一部抜粋）

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9. 1 合併症・既往歴等のある患者

9. 1. 1 乳製品に対して過敏症の既往歴のある患者

本剤は、夾雑物として乳蛋白を含む乳糖水和物を使用しており、アナフィラキシーがあらわれたとの報告がある。

#### ◆ 事例のポイント

○この他に、牛乳アレルギーがある患者にイナビル吸入粉末剤20mgが処方されたが、そのまま薬剤を交付したため、吸入後に呼吸困難となった事例も報告されている。

○調剤を行う際は、薬剤の有効成分だけでなく添加物についても把握したうえで、患者から収集したアレルギー歴や副作用歴等と照合して処方監査を行うことが重要である。

○本事業部が運営している医療事故情報収集等事業の第51回報告書では、食物アレルギーが影響する薬剤の投与に関連した事例をテーマとして取り上げている。

[http://www.med-safe.jp/pdf/report\\_2017\\_3\\_T002.pdf](http://www.med-safe.jp/pdf/report_2017_3_T002.pdf)

【原文のまま抜粋】

「**食物アレルギー**」は“食物によって引き起こされる抗原特異的な免疫学的機序を介して生体にとって不利益な症状が惹起される現象”と定義され、免疫学的機序によらないものを「**食物不耐症**」と総称します。「**アナフィラキシー**」は“アレルゲン等の侵入により、複数臓器に全身性にアレルギー症状が惹起され、生命に危機を与え得る過敏反応”と定義され、“血圧低下や意識障害を伴う場合”を「**アナフィラキシーショック**」といいます。

食物アレルギーの有症率は乳児期が最も高く加齢とともに漸減しますが、18歳以上にも5%認められます。**原因食物は鶏卵、牛乳、小麦が全体の7割以上を占め、ピーナッツ、果物、魚卵、甲殻類、ナッツ類、ソバ、魚類と続きます。**皮膚、粘膜、呼吸器、消化器、神経、循環器などの様々な臓器に症状を誘発しますが、皮膚症状が高率で、**ショック症状は10%に認められます。**

医療用医薬品は有効成分だけでなく、添加物やカプセルの原料など様々な成分を含有しています。それらの中には、食物由来の成分が含まれていることがあり、**その成分にアレルギーのある患者へ投与すると、アナフィラキシー症状を起こす**可能性があります。

アレルギー歴は薬歴に記載し、処方監査によりしっかりチェックを行うと共に、食物に対して過敏症の既往歴のある患者に注意が必要な薬剤の「薬品情報提供文書」や「お薬手帳」に食物に関するコメントを記載する等で、患者やその家族に注意喚起を行うことも有効です。

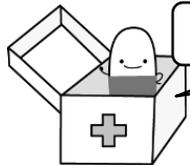
#### ＜ 参考資料 ＞

・日本小児アレルギー学会食物アレルギー委員会：食物アレルギー診療ガイドライン2016ダイジェスト版 2019年12月6日アクセス [https://www.jspaci.jp/allergy\\_2016/](https://www.jspaci.jp/allergy_2016/)

・医療事故情報収集等事業：第51回報告書（2017年7月～9月）[http://www.med-safe.jp/pdf/report\\_51.pdf](http://www.med-safe.jp/pdf/report_51.pdf)

旭川薬剤師会公式サイトに医療安全通信のバックナンバー、掲載資料や参考資料も掲載しています。





## 食物アレルギーに注意すべき薬剤（2）

添付文書の「禁忌」や「使用上の注意」、「特定の背景を有する患者に関する注意」に食物に関する注意喚起が記載されている薬剤例を下記に示します。

**食物由来の成分を含んでいても、添付文書に食物アレルギーのある患者への投与に関する記載がない薬剤も多数あります。**添加物として、牛乳由来の乳糖水和物・カゼイン・牛乳タンパク質、卵由来の卵黄レシチン・卵黄ホスファチジルセリンナトリウム、大豆由来の大豆レシチン・大豆リン脂質・大豆たんぱく質、小麦由来のコムギデンプン、ピーナッツ由来のラッカセイ油等が使用されている薬剤があり、添付文書に記載がなくても注意が必要です。

**患者から食物に対する過敏症の既往歴についての情報を得た時には、処方された各薬剤の組成を確認しましょう。**

### ★ 牛乳・乳製品

商品名	一般名	薬効分類名		添付文書の記載
アミノレバンEN配合散		肝不全用経口栄養剤	禁忌	牛乳に対しアレルギーのある患者 〔本剤は添加物としてカゼインを含有する。〕
イノラス配合経腸用液		たん白アミノ酸製剤	禁忌	牛乳たん白アレルギーを有する患者 〔本剤は牛乳由来のたん白質が含まれているため、ショック、アナフィラキシーを引き起こすことがある。〕
エネーボ配合経腸用液		タンパクアミノ酸製剤	禁忌	牛乳タンパクアレルギーを有する患者 〔本剤には牛乳由来のタンパク質が含まれているため、ショック、アナフィラキシーを引き起こすことがある。〕
エンシュア・H		たん白アミノ酸製剤	禁忌	牛乳たん白アレルギーを有する患者 〔本剤は牛乳由来のカゼインが含まれているため、ショック、アナフィラキシーを引き起こすことがある。〕
エンシュア・リキッド		たん白アミノ酸製剤	禁忌	牛乳たん白アレルギーを有する患者 〔本剤は牛乳由来のカゼインが含まれているため、ショック、アナフィラキシーを引き起こすことがある。〕
ラコールNF配合経腸用半固形剤		たん白アミノ酸製剤	禁忌	牛乳たん白アレルギーのある患者 〔本剤は牛乳由来のカゼインが含まれているため、ショック、アナフィラキシーを引き起こすことがある。〕
ラコールNF配合経腸用液		たん白アミノ酸製剤	禁忌	牛乳たん白アレルギーを有する患者 〔本剤は牛乳由来のカゼインが含まれているため、ショック、アナフィラキシー様症状を引き起こすことがある。〕
エンテロノン-R散、 耐性乳酸菌散10%	耐性乳酸菌	耐性乳酸菌製剤	禁忌	牛乳に対してアレルギーのある患者 〔アナフィラキシーを起こすことがある。〕
ラックビー-R散	耐性乳酸菌	整腸剤	禁忌	牛乳に対してアレルギーのある患者 〔アナフィラキシー様症状を起こすことがある。〕
タンナルビン	タンニン酸アルブミン	整腸剤	禁忌	牛乳アレルギーのある患者 〔ショックまたはアナフィラキシー様症状を起こすことがある。〕
ミルマグ錠350mg	水酸化マグネシウム	制酸剤/緩下剤	禁忌	牛乳に対しアレルギーのある患者 〔本剤は添加物としてカゼインを含有する。〕
イナビル吸入粉末剤20mg	ラニナミビル オクタン酸エステル水和物	長時間作用型 ノイラミニダーゼ阻害剤	特定の背景を有する 患者に関する注意	乳製品に対して過敏症の既往歴のある患者 本剤は、夾雑物として乳蛋白を含む乳糖水和物を使用しており、アナフィラキシーがあらわれたとの報告がある。
リレンザ	ザナミビル水和物	抗インフルエンザ ウイルス剤	慎重投与/ 重要な基本的注意	本剤は、夾雑物として乳蛋白を含む乳糖水和物を使用しており、乳製品に対して過敏症の既往歴のある患者に投与した際にアナフィラキシーがあらわれたとの報告があるので、投与に際しては十分に注意すること。

### ★ 卵白

商品名	一般名	薬効分類名		添付文書の記載
ムコゾーム点眼液0.5%	リゾチーム塩酸塩	消炎酵素点眼剤	禁忌	卵白アレルギーのある患者 〔本剤の成分は卵白由来の蛋白質で、卵白アレルギーを有する患者においてアナフィラキシー・ショックを含む過敏症状の報告がある〕
リフラップシート5%	リゾチーム塩酸塩	皮膚潰瘍治療剤	禁忌	卵白アレルギーのある患者 〔本剤の成分は卵白由来の蛋白質で、卵白アレルギーを有する患者においてアナフィラキシー・ショックを含む過敏症状の報告がある。〕
リフラップ軟膏5%	リゾチーム塩酸塩	皮膚潰瘍治療剤	禁忌	卵白アレルギーのある患者 〔本剤の成分は卵白由来の蛋白質で、卵白アレルギーを有する患者においてアナフィラキシー・ショックを含む過敏症状の報告がある。〕

2019年12月20日現在の添付文書データより作成

**※ 処方鑑査、疑義照会を行う時は、最新の添付文書等を参照してください。**